

<p style="text-align: center;"><u>Devotion Guide/ユースマナ</u></p> <h1 style="text-align: center;">Youth Manna</h1> <p>マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。</p>	<p style="text-align: right;">2022/8/22(月)</p> <h2 style="text-align: center;">ヨハネ15:1-17</h2> <p>5節を声に出して読んでみよう！ 英語では、私にとどまる→abides in meと訳されています。「abide in ~」という単語は、「～に住む」という意味があるんだ。つまり、イエスが言われた「私にとどまりなさい」=キリストという家に住むということ！しかし、それは一体どういうことだろうか？ ★キリストの言葉が、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい(コロサイ3:16) 例えば、①家の教会の友達を励ますのも良いアイデアだし、②お気に入りの賛美を聴く、大熱唱するのもナイス！ ③静まって、感謝だったことを思い出すのもいいね。みんなは今日、どのようにして「イエスにとどまりますか」？(私はYouTubeで賛美を爆音で流すことにします。)</p>	<p style="text-align: right;">2022/8/23(火)</p> <h2 style="text-align: center;">ヨハネ15:18-27</h2> <p>光と闇が交わることがないように、この世界は、罪の世とイエス様が支配されている御国の2つに分かれている。イエス様を信じて救われた人は御国を生きる者に変えられたけれど、時として私たちはこの世と御国を行ったり来たりしている現実はないだろうか？ 自分は誰のもので、どこに属している者か、はっきりさせよう！曖昧な生き方はサタンに付け込まれる隙を与えてしまうし、神様から与えられる喜びや平安が失われていってしまう。 イエス様に属している者として、自分の立場を明確にして生きるとは、君にとってどういうことだろうか？26節を読み、聖霊に寄り頼んで祈ろう！</p>	<p style="text-align: right;">2022/8/24(水)</p> <h2 style="text-align: center;">ヨハネ16:1-15</h2> <p>イエスは、弟子たちが「つまづくことのないため」に語られた(1)。「つまづく」とは、困難の中で、信仰を手放す誘惑に陥ることを心配された言葉である。十字架の死後、激しい迫害が起こることを見据えて、イエスは彼らに語ったのである。 またイエスは、「わたしが去って行くことはあなた方の益になるのです」と語られた(7)。なぜなら、助け主である聖霊が、イエスに代わって神の義を示すこと、世の罪の支配者が裁かれることを明らかにされるからである。イエスは、ご自身が父なる神、助け主として使わされる聖霊の一つであり、主を信じるすべてのものを導くと保証されたのである。 どんな状況でも、聖霊は信じる者の味方であり、助けを与えてくださることを信じ、信頼しよう！</p>
<p style="text-align: right;">2022/8/25(木)</p> <h2 style="text-align: center;">ヨハネ16:16-33</h2> <p>16v「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなります。またしばらくすると、わたしを見ます。」 このイエスさまの言われたことを弟子たちは理解できず互いに論じ合ったとある。ではこれはどういうことなのだろうか？十字架の復活？イエスさまが聖霊として降臨されたペンテコステ？再臨の時？ 聖書を読んでいても分からないことが多々ある。ただ一つ言えることは20.21.22vであるように、イエスさまと歩む者に最後にあるのは喜びだと言うことである。分からないから止まるのではなく、求め続けよう！ そして33vには「世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」ともある。特に日本では少数であり、弱く感じる時があるかも知れない。それでも、真理である神様に本気で期待し、信頼しよう！！</p>	<p style="text-align: right;">2022/8/26(金)</p> <h2 style="text-align: center;">ヨハネ17:1-19</h2> <p>▶イエスは、ユダに裏切られて引き渡される場所に行く前に、天の父に語りかけた。内容は自分のためだけではなく。弟子たち、そしてすべての人たちのためのとりなしの祈りであった。私たちは主のとりなしの中で守られている。 ▶祈りの中で「永遠のいのち」とは何かを明らかにされた。それは、死んだ後に天国へ行くことだけでなく、むしろ今、まことの神とイエスキリストを知ることだった。 ▶主がわたしたちのために祈られていることを覚えながら今日を過ごす。そして、聖書や祈りの中で神様のことを知っていこう。</p>	<p style="text-align: right;">2022/8/27(土)</p> <h2 style="text-align: center;">ヨハネ17:20-26</h2> <p>イエス様はご自分が十字架に向かう時が近づく中で、イエス様を信じるすべての人が一つにされることを願っていたね。それは、天のお父さんとイエス様が一つとされたように、私たちクリスチャンが一つになることを通して、この世の人たちが神様の愛を知ることができるためだって言ってるね。もちろん私たちクリスチャンも罪を犯すし、人とぶつかることもある。でも、悔い改めて神様との和解を持つこと、お互いに赦し合う、尊敬し合う関係を築くことができるんだ。イエス様の愛に留まりながら、家の教会や礼拝に参加し続けよう！ その私たちの真ん中にイエス様はいてくださるし、その姿を通してイエス様と出会う人が起こされていくよ！</p>	<p style="text-align: right;">2022/8/28(日)</p> <h2 style="text-align: center;">詩篇130-131篇</h2> <p>主を待ち望むこと、それは「今よりとこしえまで(131章3節)」神の民がなすべきこと。それは、主のみことばを待つことによる(130章5節)。それは「及びもつかない大きなこと」、神秘的なこと、奇跡的なことを求めることではない(131章1節)。日々のあのこと、このことにおいて、主に信頼して歩むことなんだ。 「私のたましい」とは私の存在そのもの。それを「和らげ、静め」「私とともに」あるとは、「乳離れした子が、母親とともにいるよう」な、全く安らかな状態を言う。「主を待ち望め」これこそ、私たち信仰者に命じられていることだね。 祈ろう：主よ、あなたを待ち望むことを学ばせてください。</p>